

慶應義塾大学大学院法務研究科（法科大学院）

2023 年度入学試験 法学未修者コース 小論文試験 出題趣旨

【小論文】

本問は、林大悟「事実を知ればすべきことが分かる？」新名隆志・林大悟〔編〕『エシックス・センス—倫理学の目を開け—』第2章（ナカニシヤ出版、2013年）に拠った。

問題文は、臓器移植との関わりでかつて激しい議論となった「脳死は人の死か」という問題につき、「事実と倫理」の視点から捉え直すことでその意味を明らかにした上で、事実を知ればすべきこと（倫理）が分かるのか、というより普遍的な問いへの答えを探究するものである。

【問1】では、「事実を調べれば人の死が分かるのだろうか。」という問いかけに答えるために、問題文がどのような「思考実験」を行い、その結果どのような答えを示したのか、その答えが導かれた根拠を示してまとめることが求められている。異星人の思考実験を通じて、臓器移植の文脈における「人の死」が「事実」ではなく倫理的概念であることを明らかにする、という問題文の意図を正確に読み取り、文字数の範囲で適切に整理・要約できているかが問われている。

【問2】では、問題文全体の論旨をふまえて、「脳死は人の死か」という問題について自らの考えを述べることが求められている。問題文についての正確な理解が必要なことは言うまでもないが、ただその内容を繰り返すだけでなく、自分の経験や知識に基づき、自らの主張をその論拠とともに明確かつ説得的に展開できているかが問われる。問題文の主張を受け入れた上で、ではどのように「人の死」を定義すべきか、という議論をすることもできるし、逆に問題文の主張を否定した上で自らの見解を展開することもできるであろう。いずれの場合も、文章の読解力に加え、問題意識の鋭さ・深さ、着眼点の良さ、論旨の説得力などが評価の対象となる。

【問1】【問2】ともに、答案全体を通しての文章の構成力と表現力、語彙の豊かさ、洞察力、見解の独自性などを総合的に評価する。字数が足りない場合や超過した場合は減点の対象となる。